

1000年歴史まち

くさ っ 津 草 津

【地名の由来】

昔、草津は軍(いくさ)の港として使われたので「軍津(いくさつ)」と呼ばれ、それが「草津」になったといわれている。中世、港は村の西側にあり、草津城は水軍城として重要な役割を果たしていた。

① 安芸国養蠆碑

マップB-6

延宝年間に草津の小林五郎左衛門が、干潟に立てた竹や木の枝に牡蠣を付けて養育する「ひび立て」の養殖法を考案、西道朴はその養殖を助けた。明治30年(1897年)に水産博覧会が神戸で開かれた時、その功績が認められ表彰された。佐伯郡民(当時)は、永くその功績を称えようとしてこの碑を建てた。



牡蠣の「ひび立て」養殖法を考案した功績を称える碑

② 雁木

マップB-6

雁木とは、石を階段状に積んだ岸壁。瀬戸内海沿岸に多く見られ、潮の満ち引きによる海面の上下に関係なく船を接岸できるように工夫したものである。



埋め立てられたが名残が見える

③ 草津城址

マップB-6



草津城の跡(城山)は、山陽本線と宮島線電車の開通により三分された。

④ 鏝絵

鏝絵は左官職人の技術を集約した漆喰彫刻。草津のまちには鏝絵が多い。かつては土蔵に飾られていた鏝絵を草津公民館のロビーで見ることができる。



⑤ 石組みの庭

マップB-6

海蔵寺庫裏の山側に、元禄年間に作庭された石組みの庭がある。山畔利用式で天平石(天面が平らな石)を多用しているのが大きな特徴。



⑥ 臥龍松

マップB-6

東西に伸びた枝はどちらも20m近くあり、龍がうねっているように見える。日本の樹医第一人者の故山野忠彦は、地上に伏した龍が今まさに飛ぼうとする姿から「臥龍松」と評した。



浄教寺境内にある黒松

⑦ 一本松と石碑

マップB-6

一本松は旧草津港の先端にあったので、出入りする船の目印になっていたようだ。またこの辺りは通称「御番所」といわれ、浅野藩「御番所(船役人の番所)」があったともいわれている。石碑には「文政四年辛巳(かのとみ)年新地波止築造」という説明と頼山陽の筆との説もある歌が刻まれている。

